

第6回 訓練シナリオ開発ワーキンググループ議事概要

1. 日時：令和3年3月10日 13:30～15:20
2. 場所：原子力規制庁 ERC
3. 出席者
原子力規制庁
山形緊急事態対策監
緊急事案対策室
古金谷室長、児玉企画調整官、宮地防災専門官、平野室長補佐
(以下、テレビ会議システムで参加)
北海道電力株式会社
原子力事業統括部 原子力安全推進グループ 主任 他3名
東北電力株式会社
原子力部 原子力業務 課長 他3名
東京電力ホールディングス株式会社
原子力運営管理部 課長
中部電力株式会社
原子力部 防災・核物質防護グループ 課長 他1名
北陸電力株式会社
原子力部 原子力防災チーム 統括 他1名
関西電力株式会社
原子力事業本部 危機管理グループ マネジャー 他6名
中国電力株式会社
電源事業本部 (原子力運営グループ) 副長 他5名
四国電力株式会社
原子力本部 管理グループ グループリーダー 他9名
九州電力株式会社
原子力発電本部 原子力防災グループ グループ長 他11名
日本原子力発電株式会社
発電管理室 警備・防災 Gr 主任 他1名
原子力エネルギー協議会
副長
4. 議題
議題1 令和2年度I型訓練シナリオについて
議題2 令和2年度II型訓練実施計画について

議題3 令和2年度のI型・II型訓練実施実績

議題4 その他

5. 議事要旨

議題1 令和2年度I型訓練シナリオについて

令和2年度I型訓練（発電所の指揮者の判断能力向上のための訓練）の基本シナリオについて議論し、主に以下の事項を合意した（資料1）。

○PWRについては、基本シナリオ案（玄海原子力発電所、大飯発電所、伊方発電所）のうち、玄海原子力発電所のシナリオ案を令和2年度I型訓練シナリオの基本シナリオとする。その他の大飯発電所、伊方発電所のシナリオ案については、訓練の実施に努める。

○BWRについては、柏崎刈羽原子力発電所のシナリオ案を令和2年度I型訓練シナリオの基本シナリオとする。

○次回の訓練シナリオ開発ワーキンググループにおいて、訓練実施計画、令和3年度における訓練シナリオ開発の進め方等の活動計画を議論し、これらを訓練報告会で報告をする。

議題2 令和2年度II型訓練実施計画について

令和2年度II型訓練（現場対応能力向上のための訓練）の実実施計画について議論し、主に以下の事項を合意した（資料2）。

○令和2年度II型訓練は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しつつ、多くの事業者が参加できる形で訓練を実施する。

○次回の訓練シナリオ開発ワーキンググループにおいて、訓練実施計画、令和3年度における訓練シナリオ開発の進め方等の活動計画を議論し、これらを訓練報告会で報告をする。

議題3 令和2年度のI型・II型訓練実施実績

令和2年度に実施したI型及びII型訓練の各社での実施実績について、事業者から説明があり、本日の報告を基に実施結果をとりまとめ、訓練報告会で報告することとした（資料3）。

議題4 その他

訓練シナリオ開発ワーキンググループで開発した訓練シナリオの各社への反映状況について、事業者から説明があり、これまで開発した訓練シナリオを用いた訓練により得られた成果を取りまとめ、訓練報告会で報告することとした（資料4）。

また、原子力規制庁から、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故の反省から、これまでは事故にしっかり対応するとの認識を共有し、緊張感をもって訓練等に取り組んできたものの、事故から 10 年が経ち、今後はこの認識が風化しかねないことから、モチベーションを維持しつつ緊張感を持って訓練等を継続するための訓練等のあり方を意見交換することについて提案があり、次回以降の訓練シナリオ開発ワーキンググループにおいて議論することとした。

以上